

金パラ 4,779 円に 3 月改定 急騰する価格に対応できず 逆ザヤはさらに拡大へ

1月16日に中医協により、2026年3月からの歯科貴金属価格の随時改定が決定されました。3月1日からの金パラの告示価格は4,779円(977円・25.7%引き上げ)です。30gあたりでは143,370円となり、現行114,060円から実に29,310円の引き上げとなります。ただし、3月からの価格改定の参考となる見直し期間は昨年10月から12月までの3カ月間ですので、年末から今年に入ってから大幅な金の価格上昇に起因すると思われる直近の金パラ価格の高騰分は今回の改定価格には反映されておらず、実質的には大幅な逆ザヤが起こっているものと思われます。

図は直近の歯科用貴金属素材価格の変動推移です。特にここ半年ほどの金素材価格は驚くほど上昇しているのがわかります。パラジウム素材価格も上昇に転じており、ここから見ても、3カ月おきの随時改定における金パラ補綴関連の保険点数の上昇度は市場の価格に到底追いついておらず、金パラを使用した歯科補綴治療は経営的にもとても有利とはいえない状況です。

昨今の保険点数改定では、例えば小白歯においてほぼ無条件にCAD/CAM冠が適用できたり、第二大臼歯へのエンドクラウンの採用など、脱メタルへの動きが大幅に拡大しています。本来、治療における補綴物の選択はその歯牙や補綴物の予知性から決定されるべきものですが、その範囲でもし可能であれば、脱メタル補綴を目指していきたいものです。

今回の金パラの告示価格の改定に伴う変更点数につきまして、保団連では全国保険医新聞の中で歯科点数早見表を掲載する予定なっていますので併せてご参照下さい。

(吉原 右記)

図 歯科用貴金属素材価格の変動推移

